



5年生、6年生になると大事なことがばっかりですよ！

新中1、覚えなければならぬことがたくさん



あります！ いよいよ中2、中学校にも慣れてきました。気を緩めずに目標を決めてしっかり部活と勉強



頑張ります！ 中3生は入試までは9ヶ月です。9月からは学力A、B、Cテストです。志望校に向かってとにかく



やることです。やる気十分、新高1生



根室の岸部先生から差入れ8期生の佐々木卓也夫妻が第一子を見せに来てくれました。生まれてから毎日1枚(365枚)写真を撮るように言いました！



18期生の廣谷玲さんがGW後に母校の湖陵高校で、教育実習(3週間)だということで報告に来てくれました。5/7

★6月いよいよ第一回の定期テスト★
6月は中3生の修学旅行や中2生の宿泊研修、小学校の運動会などで、なかなか落ち着いて勉強できませんが、新学年一回目の定期テストがあります。中学生も高校生も、学年のはじめの範囲はそれ程難しくありません。テスト範囲が出たら計画的にしっかりとテスト勉強をすることです。特に中学生は定期テストの結果が内申点に影響します。テストの結果が悪くても今は何も起こりませんが、頑張つて勉強した人とやらなかった人の差が近い将来必ず出ます。求人倍率や就職率が上がっている報道がされていますが、現実には裏面の記事にあるようなことが起きています。格差社会はますます広がっています。早く、高校、大学、そして将来どんな仕事に就きたいのかを決めてそれに向かって準備をすることが

とても大切です。大学を卒業する22歳までには、ほぼ自分の人生が確定していると思われる。小学生だからといって安心はしてはいけません。充実した人生を送るには、しっかりと目標とそれに向かって努力すること以外にありません。とにかく一回目の定期テスト目標を決めて頑張りましょう。13、14日は徹底してテスト範囲の問題を解く1000分特講です。
★発信箱 新聞読むのは変な人？★
「新聞を読む姿を友達に見られると恥ずかしい。変な人だと思われそう」「大学図書館では人目を避けて読みます」。新聞社にインタビューにやってきた新聞記者志望の大学生たちがこう言い出した時はさすがに驚いた。は、恥ずかしい？「なんか勉強しているとそれって、参考書と同じ？」「いや、参考書は試験前に誰でも読むから恥ずかしくないんです。でも、紙の新聞は普通の人は読まないじゃないですか」。えーっ！
あわてて、新聞社でアルバイトをしている大学生にも聞いて回ったが、「新聞を読んでも気取ってると思われる」「意識高い」と陰口たたかれそうなどと誰もが口をそろえる。
「広く浅く」とか「国民誰もがターゲット」というマーケティングの時代が終わって久しい。若者の「新聞離れ」だって、今に始まったことではない。若者の間で、新聞がもはや「マスメディア」として機能していないことだって、気付いてはいた。でも、まさか、隠れて読まないという恥ずかしいモノになっ

ていたとは！
この春も、新聞社には記者の卵たちが入社した。彼らだって「新聞を友達の前で読むのは恥ずかしい」という感覚を共有する世代だ。それでもあえて新聞を読み、この仕事を選んだ。もはや「絶滅危惧種」かもしれない。これからの時代、新聞がどうなっていくのか分からない。でも不特定多数の人に発信するメディアの必要性はまだあると信じている。だからせめて、できるだけ多様な人に記事を届ける努力をしたいと思う。
希望と体力にあふれる新人記者たちをながめ、負

ければ身に付く割合が増える反面、小言や叱責だけだと効果がみられないことが分かった。同機構は「やってみせて、させてみる。子供を後押しする姿勢が重要」と分析している。
公立600校を抽出して調査し、小中高生約1万7000人と小学生の保護者約7800人から回答を得た。マナーや自立、健康管理に関する27の事項を子供ができるかや、親の意識などを調べた。親の姿勢では▽あいさつや食生活の指導▽子供の自主性尊重▽共通の体験を増やすをよくする親ほど、子供はこれらのことができる傾向があった。一方、小言や「頑張れ」など具体性がない叱責、親の意見の押し付けでは効果が確認できなかった。
また、親が幼少時にしていたことは子供も身に付いている傾向があり、同機構は「親の期待や手本がしつこく影響するのでは」と推測した。

■子供の生活力に関する主な質問項目

	小5	中2	高2
ナイフでリングの皮をむく	43.9	72.0	73.5
お金を計画的に使う	72.7	77.2	71.8
休日着る服を自分で選ぶ	81.4	92.6	88.7
決めた時間に自分で起きる	49.2	61.5	66.7
目上の人に丁寧な言葉を使う	72.4	84.4	82.9
毎朝朝食を食べる	85.8	84.6	76.1
夜更かしをしない	45.0	27.8	20.8
人の話に相づちを打つ	73.0	79.5	85.7
自分と違う意見を受け入れる	76.3	83.9	83.9
自分の家で東西南北を示す	61.8	58.9	57.2

※できると答えた子供の割合(単位%)
子供は叱るだけではだめ。あいさつや身の回りの世話など、子供の生活上必要な力について国立青少年教育振興機構が調べたところ、親が見本を示したり、一緒に体験を通じて教えたりす

親の小言子に届かず？しつこくは「共に体験」が大切：子供の生活力調査

小国綾子(夕刊編集部) 毎日新聞04月14日

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月
		★美原定期	休塾			★富原定期 25日	★景雲定期		休塾			★鳥取西定期 19日	★青陵定期			1000分特講(希望者のみ) 休塾					★湖陵定期 12日		休塾	★桜が丘定期	★武修館定期 5日	★江南定期 5日	★富原2年宿研		

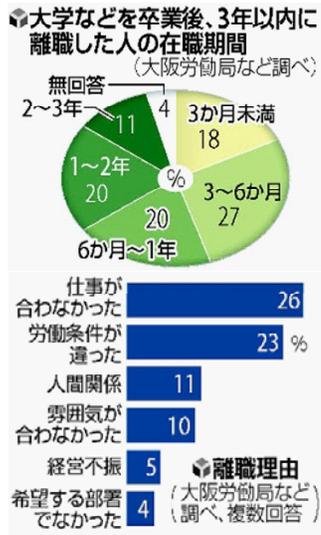


携帯電話の持ち込み禁止
連絡は塾の電話を使用して下さい。

6月の予定

「3年で離職の7割、1年内「仕事合わず」26%」

新卒・労働局調査



関西の大学などを卒業して就職したものの3年以内に離職した人のうち、7割が1年以内に離職していたことが大阪労働局などのアンケート調査でわかった。

離職の理由(複数回答)は、「仕事合わなかった」(26%)や「(休日などの)労働条件が違った」(23%)が多く、同労働局は「会社を知名度やイメージで選ぶ学生が多い。中小企業も含めた企業研究を十分に行うよう助言したい」としている。

調査は昨年8~11月、京阪神の新卒応援ハローワークなどが実施。大学や短大などを2011年4月~14年3月に卒業し、就職から3年以内に離職した328人が回答した。国の調査では、就職した大学生の3割が3年以内に離職している。

調査結果によると、就職活動で重視する点として、最初の就職時は「業界」を挙げた人が18%、「知名度」も7%を占めたが、離職後は「業界」8%、「知名度」0%に激減。反対に「労働条件」は、13%から34%へと急増した。

離職するまでの期間は、入社後「3か月~6か月」が27%と最多。同期入社の有無で比較すると、いない方が短期間で離職する割合が高く、同期入社がいなかった人の64%が6か月以内に離職していた。

05.05 YOMIURI ONLINE より

「子供の貧困深刻・学力最低…足立区初の対策会議」

足立区役所で開かれた子どもの貧困対策検討会議の初会合

多数の高校中退者が出るなど子供の貧困と学力低下が問題となっている東京都足立区は30日、子供の貧困対策を検討する有識者会議の初会合を開いた。

同区は生活保護受給世帯の子供の増加傾向が顕著で、全国学力テストの結果も東京23区で最低水準。出産前の母親支援から児童生徒の学習指導まで世代ごとにきめ細かい対策を検討し、貧困世帯の子供の「負の連鎖」を断ち切りたいとしている。

この日の「子どもの貧困対策検討会議」は、政府の「子どもの貧困対策に関する検討会」座長を務めた宮本みち子・放送大副学長ら有識者6人や区の教育、福祉部門の担当部長らがメンバーで、近藤弥生区長は、「連鎖する貧困解消に向けた対策を一日も早く実現したい」とあいさつした。

同区は、貧困と学力を示す多くの指標が、東京23区最低水準となっている。区によると、2013年の18歳未満の生活保護受給者は3428人と、2000年の約1.5倍に増加した。小中学校の給食費などの就学援助制度を利用している世帯も13年度は37%と全国平均の2倍程度となっている。さらに区内の都立高校中退者数(314人)も、23区全体の1割以上を占めている。

04.30 YOMIURI ONLINE より

「過保護すぎる? 朝から行列のできる学食」

100円、1円、そして無料まで…正しい食生活身につくか

学生の健康管理や生活リズムの改善に向けて、全国の大学で「格安朝食」を提供する動きが広まっている。大半が1時限目の授業が始まるまでの限定だが、100円や1円、なかには無料の学食も振る舞われている。格安朝食ブームの火付け役となったのは、約3万5千人の学生の半数以上が1人暮らしという立命館大(京都市北区)。平成25年12月に100円朝食を導入して以降、利用者はわずか約1年で10万人を突破した。授業がなくても早朝から大学に通うという学生も増えてきたらしい。こうした大学側の対応は、保護者の要望も取り込んだ生き残り戦略の一端だが、食生活まで「至れり尽くせり」でサポートするさまは、中高年層から見れば違和感とともに「過保護」の文字も浮かぶかもしれない。大学による格安朝食の提供、あなたはごどう思いますか。(北崎諒子)

開店前から行列

午前8時。立命館大衣笠キャンパスの生協食堂「以学館」(全428席)が開店すると、並んでいた30人ほどの学生が続々と入っていった。メニューは、ご飯とみそ汁、おかずと普通の学食と変わらない。おかずは約30種類の中から選び、300グラムまでが100円。学生たちは、真剣な表情で備え付けの測りにおかずを

盛った皿を載せ、重さをはかってレジに並んでいた。せっかくなので、私も学食をいただいてみた。から揚げやサトイモの煮付けなどのおかずを盛ったが、300グラムだと4種類ほどのおかずが選べるので、量も十分。味もしっかりついていておいしい。

友人と毎日利用しているという法学部2年の翠(みす)彩香さん(19)は「下宿しているので、安いのはすごくありがたい。早起きにもつながる」。

毎日2人前を食べるという法学部2年の篠原宏昌さん(20)は100円朝食のために、大阪市内の実家から毎朝5時半に起きて通っているという。この日も2人前を完食。「栄養満点で生活リズムを整えやすい。朝食を食べると『今日も元気でいける』という気持ちになる」と笑顔で話していた。取材している間にも続々と学生たちが訪れ、開店から約20分で食堂の半分以上の席が埋まった。

友人2人と初めて利用した文学部1年の原田潤一さん(19)は「下宿しているので、時間がない朝に皿洗いをする必要がないのは助かる」と話した。100円朝食がなければ朝食はどうするのか。学生たちに聞いてみると、「食べない」「菓子パンですませている」という声も。

朝は時間がなく、朝食を作る時間や洗い物をする時間が惜しいという声も。おかずの種類が豊富な100円朝食は学生たちにとって魅力的なのだという。

2月から「以学館」の店長を務めている森田祐一さん(58)は着任当初、朝の学生の集まり具合に驚いた。「毎朝6時から準備して、おかずの栄養バランスを考えて提供するようにしている」と語る。

1円にしたところ、利用者約7倍に

100円朝食を食べることができるのは、立命館大の衣笠キャンパスとびわこ・くさつキャンパス(BKC・滋賀県草津市)。午前8時から約40分間の限定の販売だ。「早く来て、朝食を待つ時間を勉強にあてる」という学生もおり、導入前と導入後と比べると、午前8時台に施設を利用する学生数は1日平均約150人から約300人と倍増。多いときは約440人に達した日もあった。

一方、高知大(高知市)は25年4月から、なんと「1円朝食」をスタートさせた。学食の年間利用定期券「ミールカード」を利用する学生が対象。251円の朝食料金から250円を割り引く仕組みで、メニューもハンバーグや卵焼き、ししゃもの定食など8種類ほどある。1日の利用者は年々増え、導入前の約7倍の400人にまで増加した。以前からこうした取り組みを行っている白鷗大(栃木県小山市)では11年11月から期間限定の無料朝食を行っている。期間限定で、昨年4月8日~5月2日の19日間実施。今年も4月8日から28日まで実施した。連休明け以降は100円朝食を提供し、日替わり定食にサラダバイキングがつく。

大学側の思いは…

大学側が次々と格安朝食に乗り出す背景には「朝食をしっかりと食べて、生活リズムを整えてほしい」との思いがある。学食の朝食の値段といえば、だいたい250円程度。一般的な飲食店のモーニングセットなどを食べることを考えれば、十分安いのだが、経済事情が厳しい学生たちも少なくない。「朝食に250円を使うのはもったいない」という声もあるのだという。

学業だけでなく、経済面や食生活まで大学側が細心の注意を払って対応することには、「若者を甘やかさすぎではないか」というおじさんたちの声も聞こえてきそう。だがこうした背景には、「大学全入時代、中でも、きめ細やかな対応で差別化を図り、激しい生き残り競争に勝ち抜こうという大学側の思惑もある」。

そもそも、立命館大が100円朝食を導入したのは、保護者たちの声がかかった。「朝ご飯をちゃんと食べているのか心配」という保護者の不安に大学側が応えるかたちで導入が決まったという。立命館大の24年度の調査によると、1年の男子学生の約75パーセントが朝食を食べていると回答したが、2年以降になると、一気に半数以下に減少。高知大も、22年度の調査で約半数の学生が朝食を食べていないことが判明、食生活を改善してもらいたいと開始した。格安朝食は「安心して子供を任せられることができる大学はどこか」という保護者たちのニーズをつかんだ戦略でもあるのだ。さらに、立命館大びわこ・くさつキャンパスでは地元の滋賀県産の野菜を100円朝食に導入し、実際に地元野菜を食べてもらうことで農産物への関心を高める取り組みも始めている。担当者は「地産地消につなげて、地域の農業の振興をはかりたい」と話す。

スポーツと食生活の関係性をテーマに研究している立命館大スポーツ健康科学部の海老久美子教授(52)は、格安朝食の重要性について「食事によって生活リズムを整えるのが、これからの身体作りに必要」と説く。

「大学は学ぶだけでなく、社会に出る前に規則正しい食事の習慣を身につける場所でもある。これだけ反響があるということは、学生たちも朝食の必要性を感じていたのではないかと話した。

05.06 産経 WEST より